

<奨励賞 7団体>

■ 休日あそび隊実施推進協議会 (奈良)

団体概要	学校完全週5日制の実施に伴い、地域での子どもと大人の交流の場にと奈良市鳥見地区自治連合会の事業の一つとして2002年にスタート。活動の更なる発展を目指し、2003年より独立した団体となる。設立時は、その名のとおり休日に行う活動だけであったが、2005年度からは平日に行う活動にも取り組んでいる。
事業概要	本事業では、毎月1回土曜もしくは日曜に実施する「休日活動事業」と、毎月第1・3・5水曜に実施する「平日活動事業」を二本柱とする。「休日」では、普段学校や家庭で体験する機会の少ないプログラムを行い、「平日」では子どもが集う『場』と『時間』を設け、自由に遊び、学び、交流する。いずれも、地域の大人がボランティアとして関わることで世代間交流も促進する。
講評	子ども達が大人と交流する機会が少なくなっている中で、本事業は自分達の暮らす地域全体で子どもを育むことを目指し、それを地道に体現している点が評価された。活動場所は、参加者・サポートする大人のいずれもが居住している地区であり、誰もが参加しやすい点が特徴的である。また、協力体制も自治会連合会を始め、学校・スポーツ文化協会、地元に住む獣医師・メーキャップアーティストなどの専門職も含め幅広い住民の参画がある。活動を通して、日常の人間関係の豊かさも培っており、他の地域での活動展開への示唆にも富んでいる。

■ 農業小学校をつくる会 (滋賀)

団体概要	小さな農業や自然体験学習、生活体験学習を基調とした学校法人初等部の創設を目標として1994年に結成されたが、1996年に開講した日曜親子農業体験教室としての「草の根農業小学校」が予想外の反響を呼び、それ以来社会教育のフィールドに軸足をおいた活動を続けている。
事業概要	本事業は、滋賀県栗東市の農地で年間52日間に及ぶ通年型の農業体験教室を開催するものである。参加者が主体的・積極的に取り組めるように親子・家族単位の「じぶんの畑」を設ける一方、農地の半分を「協同菜園」として、多くの時間を割いて参加者全員で協同作業し、農繁期以外は林の体験などの自然体験活動も行う。
講評	農薬や農業機械を最小限に抑えた「等身大の農業」には、生命・環境・協同・労働などに関する重要なテーマが内包されており、子ども達自身が体験しながらそのテーマを感じ取れる貴重な機会である。本事業は、これまでの農業体験活動への継続性とあわせて、自然体験に関する総合的な活動が評価された。今後は、広がりつつある他の地域への活動の波及をさらに期待したい。

■ 特定非営利活動法人 プール・ボランティア (大阪)

団体概要	「水」の特性に着目し、障がい児・者や高齢者をプールに案内し、楽しく安全に「水」に親んでもらいたいと、ノーマライゼーションの考えから一般の公営プールで、泳げるボランティアが水泳指導を行っている。また、障がい児・者や高齢者の視点にたったプールバリアフリーマップの作成、水着の企画開発なども手がけている。
事業概要	この事業は、泳げる理学療法士と同団体の泳げるボランティアが協力して、超重度身体障がい児の「プールに行きたい夢」を実現させるものである。月に2回、1人の重度障害児を、理学療法士1人、ボランティア2人の計3人が水中で担当し、子どもの障がいに合わせてサポート内容を理学療法士と一緒に考えて実施する。
講評	必要であるにもかかわらず、日常ではほとんど運動ができない超重度の障がい児に、定期的なスポーツの場を提供する本事業は、切実な社会ニーズに即した事業といえ、公営プールでの活動は地域のノーマライゼーション普及も期待できる。また、医学的な知識を持つ理学療法士が全面的に参画することは、福祉分野に新たな専門家が加わる協働のスタイルを事業で実現することであり、従来なし得なかった新しいアプローチの可能性を広げるものとして高く評価された。

■ NGO ベトナム in KOBE (兵庫)

団体概要	1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、外国人が抱える様々な問題が世間に知られるようになり、あたたかい支援を受けた神戸に暮らすベトナム人定住者が、支援を受ける側からする側になろうと、2001年に同団体を設立した。自分達の問題は出来るだけ自力で解決していきたいと、在日ベトナム人を対象とした、相談や高齢者支援、子どもの母語教育や文化継承など様々な活動に取り組んでいる。
事業概要	本事業は、神戸に多く暮らすベトナム人児童と保護者のための日本文化と日本社会探索の事業を実施するものである。ベトナム人親子間の日本文化・社会知識のズレを解消するために、ベトナムには習慣のない日本のお弁当作りや遠足・課外授業を親子と一緒に体験し、親子の触れ合いと日本文化を知る場を提供する。
講評	日本で暮らすベトナム人の親と子の世代で起こる文化や慣習の相違を乗り越えることを本事業は目指しており、当事者団体が身近な人に手を差し伸べる創意工夫が細やかに成されている点が評価された。こういった社会に顕在化し難いニーズに光をあてることは、NPOの先駆性を発揮できる活動であり、小さな事業に光を当てる面から見ても本アワードの主旨に適う事業であるといえる。

■ 特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば（京都）

団体概要	1980年に「京都親と子の劇場」の分割に伴い、「山科醍醐親と子の劇場」として独立し、2000年に法人格を取得して現在の名称に変更した。京都市伏見区醍醐地区で、異年齢集団の中での子どもの諸活動を支援し、プロによる舞台芸術鑑賞、居場所づくり等を中心に、0歳から大人までの幅広い年齢層への活動を行う。
事業概要	様々な事情（発達障がい・不登校・いじめ等）で、学校の勉強がおもしろくない、ついていけない子どもの学習を、地域の大学生を中心とする学習サポーターが自分の特技や専門を生かしマンツーマンで関わり、学びと子ども自身の可能性を伸ばす「学習サポーターのびのび（通所）」を実施するものである。
講評	子どもの学習意欲の低下は、昨今の社会を取り巻く主要課題の一つである。地域の大学生が、自分の特技や専門を活かして子どもと関わり、単なる学校の勉強を超えた学びに携わることは、学習意欲の向上と共に、人間関係作りの構築にも大きな意義がある。今後は、団体の長年の実績から一歩前を出て、より活動の幅を広げて、新たな資源の活用やさらなる事業展開を期待したい。

■ よりみちクラブ運営委員会（兵庫）

団体概要	神戸市では、重度障がい児童は児童館での利用を断られる等、地域での生活を支える制度がほとんどなく、家族が全てを背負う現状がある。その中で、放課後・休日の預かりを求める切実な声が多く寄せられ、長田区でこの問題と一緒に取り組んでいる人達（運営委員）とともに、問題を受け止め、福祉と教育の制度の谷間にある学齢期（小学生～高校生）障がい児童の生活支援のために、2003年に設立された。
事業概要	本事業は、非常に大切であるにも関わらず同年齢の子ども達と一緒に過ごす時間の少ない障がいをもっている子ども達に対して、その場を提供する事業である。学齢期の障がいを持つ子ども達と一緒に地域のレクリエーション施設に外出する休日の外出活動、長期休暇中の預かり活動の2つの事業で、参加者は他人とのコミュニケーション方法と共に、社会で生きていく力を学ぶ。
講評	障がい児を支える制度が地域で少ない中で、社会ニーズに即した地道な活動を地域で展開している点が評価された。また、運営委員に保護者や地域に根ざした団体（社協・作業所など）が入るだけでなく、近所の子ども達が「お友達ボランティア」として長期休暇を一緒に過ごすなど、地域での市民の共感・参加が高いことも特徴的である。今後は、活動の幅を広げて、制度化の実現に向けた取り組みを望みたい。

■ 特定非営利活動法人 ワークレッシュ (大阪)

団体概要	2000年に任意団体として発足し、2002年に法人格を取得し、学年・学区を問わない夜間までの子どもの居場所～ワークレッシュの運営を開始した。現在もその活動を継続しつつ、各種学習会の開催や大阪狭山市のつどいの広場事業「ファインズガーデン」で、子育て中の親子の交流やつどいの場の提供、相談・援助を展開する。
事業概要	本事業は、子どもと父親が共に料理をし、調理や食事を通して、その大切さや楽しさ・楽しさを知る料理教室を実施するものである。料理経験のない父親・子ども達でも主体的に参加できるよう、テーマや献立を参加者と一緒に作り、交流会や実習最終回の母親や祖父母を呼んでの発表会で、世代や地区を越えた人々とのふれあいや継続的な地域参加への機会を提供する。
講評	わが国の既婚男性が家事・育児に費やす時間は、世界的に見ても低水準と言われており、少子化対策や男女協同参画社会の実現に向けて、必要性が叫ばれている。本事業は、父親が気軽に家事や育児を経験する機会を提供するものであり、潜在的な社会ニーズを顕在化し、地域活動への参加を促すための布石と位置付けた事業設計が評価された。今後は、本事業の結果集積の成果物や、単なる講座として終わらせない継続した事業展開を期待したい。

(50音順)